

授業科目名・形態	成人看護方法論Ⅲ（周手術期） 演習	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	水木 暢子・村川 徳昭	実務経験の有無	有	開講期	2年後期

【授業の主題】

様々な健康障害をもち手術療法を受ける成人期の対象を理解し、患者・家族の QOL を高める方法を学ぶ。手術前後における心身の侵襲を予測し、患者自身が回復の意欲や目標を持ち新たなセルフケア能力を獲得できるように必要な看護の知識・技術を習得する。また、成人期に遭遇する代表的な手術を受ける患者の看護を取り上げ、術前から術後に至る一連の流れに沿った看護実践について講義や演習を通して学習する。

【到達目標】

- 1) 様々な健康障害をもち手術療法を受ける対象の看護アセスメントと看護方法を適切に考察できる。
- 2) 周手術期にある対象と家族を身体的・心理・社会的にとらえ、適切な看護援助を提供するための基本を理解できる。
- 3) 術後合併症の予防と看護について考察できる。
- 4) 代表的な手術を受ける患者の特徴や術前・術中・術後に必要な看護援助の基本を習得する。

【授業計画・内容】

第 1 回	周手術期看護の特徴と対象の理解	(水木)
第 2 回	周手術過程に応じた看護① 術前の看護	(水木)
第 3 回	〃 ② 術中の看護	(村川)
第 4 回	〃 ③ 術後の看護	(水木)
第 5 回	手術合併症予防のための看護技術（グループワーク）	(水木)
第 6 回	〃 （グループ発表）	(水木)
第 7 回	呼吸機能障害をもつ人の看護：肺切除術を受ける患者の場合	(水木)
第 8 回	栄養摂取障害をもつ人の看護：胃切除術を受ける患者の場合	(水木)
第 9 回	排泄機能障害をもつ人の看護：ストーマ造設術を受ける患者の場合	(水木)
第 10 回	排泄障害時の看護技術（周手術期におけるストーマケアの演習）	(水木)
第 11 回	内視鏡下手術と日帰り手術を受ける人の看護	(水木)
第 12 回	周手術期にある人の看護アセスメント①	(水木)
第 13 回	性・生殖機能障害をもつ人の看護①：乳房切除術を受ける患者の場合	(水木)
第 14 回	性・生殖機能障害をもつ人の看護②：子宮摘出術、前立腺切除術を受ける患者の場合	(水木)
第 15 回	周手術期にある人の看護アセスメント②	(水木)

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

専門基礎科目、成人看護学概論等、既習の関連科目の復習が必要です。特に病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ中で、本科目で取り扱う疾患や治療についての事前学習課題を最初の授業で提示するので、十分に復習してください。また次回授業のレジュメや資料を提示するので事前学習に活用してください。

【主な関連する科目】

病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

成人看護学 周手術期看護論 第3版 スーヴェルヒロカワ

【参考文献】

成人看護学 B 急性期にある患者の看護Ⅱ 第3版 周手術期看護 廣川書店

成人看護学 H 成人看護技術Ⅱ 急性期にある患者の看護技術 第2版 廣川書店

【成績評価方法】

筆記試験 80%、提出課題・授業への参加態度 20%により評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院での周手術期看護および医療の経験をもとに、実践的な周手術期看護の知識、技能を教授する。

【学生へのメッセージ】

3年次の成人・老年看護学実習を想定しながら、演習やグループワークを取り入れて授業を進めていきます。周手術期の対象に対する看護方法を主体的に、かつ楽しく学習していきましょう。